

# 自主簡易アセスの普及に向けたワークショップ

## 開催記録

### ■はじめに

NPO地域づくり工房では、中小規模の開発事業等における自主的な環境配慮の取組みを支援するため、自主簡易アセス支援ツールの開発を進めています。

この間、本会法人会員である株式会社フォーラムエイト様及び一般財団法人最先端表現技術利用推進協会のご協力を頂いて、「自主簡易アセス支援サイト」と関連するソフトを開発してきました。また、本会の実践事例の紹介を交えて、支援サイトや開発したソフトの利用方法等を紹介した『環境アセス&VRクラウド』（傘木宏夫著、2015年11月）も出版させていただきました。

このたび、これらの到達点をご紹介し、今後の開発に役立てることと、自主簡易アセスの取組みの輪を広げることを目的に、ワークショップを開催しました。そこで頂いたご意見などをご紹介します。

### ■実施概要

開催数：4回（12/17 東京、1/21 京都、2/4 東京、3/7 東京&大阪）

※3/7 東京&大阪はテレビ会議システムとクラウド機能を使って同時開催

出席者：のべ22名（スタッフ、関係者を除く）

主催：NPO地域づくり工房

協力：株式会社フォーラムエイト、一般財団法人最先端表現技術利用推進協議会

助成元：独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」（平成27年度）

### ■頂いた意見等の概要

#### <実践事例について>

- \* 小さな太陽光発電設備について自主簡易アセスを取組んでみて、環境アセスに対する住民の不信感があることがわかった。自主簡易アセスの取組みを広げることで、環境アセスが身近なものになり、理解が広がるといいと思う。
- \* アセスコンサルの仕事の大半は自主アセス的なものであるが、現状は調査結果が事業者の安心材料や内部検討資料となってしまう。これはもったいないことなので、そうならないように自主簡易アセスを巧く活用できればよい。
- \* 燃料電池車の普及に合わせて整備される水素ステーションや小規模火力の分野にも応用できる。
- \* 津波の防波堤を作る場合なども、3D-VRを活用した自主簡易アセスなら住民にイメージを伝えやすい。

- \*事業が行われる場合、どうしても住民側の視点で見て反対や心配が出てきてしまうが、VRクラウドなどを利用してゆくと分かりやすいと感じた。
- \*自主簡易アセスとは、かつてアセス法が整備される前にはさかんに行われていたミニアセスに近いと理解した。再構築されるといいと思う。
- \*どれほど丁寧に説明しても、事業主と住民側は歩み寄れない傾向にある。良い成果を出し続けて、実績を積み重ねるしかないので、これらの取り組みがもっと普及して欲しいと思う。

### <ツールに対する評価>

- \*「自主簡易アセス」と聞いてもピンとこないので、もう少し親しみやすい名称があると良いと思う。
- \*対話の成り立ちにくいものに関して信頼感をより強めるためのツールとして期待している。できるだけ早く広めて行きたい。
- \*3D-VRで可視化することで住民側の視点に立つことができるのは素晴らしい。
- \*支援サイトは住民の側が疑問を提出する際の道具にもなる。
- \*3D-VRの利用で幅広い利害関係者の意見を聞くことができる
- \*環境アセスメは誰のためのものなのか？という疑問に答えてくれるツール。アセスの設計では、開発者からの目線からの取組みが通常であるが、VRクラウドツールによって住民目線で自分の自宅への影響などをバーチャルで知ることができるのは環境コミュニケーションの観点からも素晴らしい。

### <簡易さについて>

- \*支援サイトは、シンプルだが、逆に本質をはずしていない点が評価できる。
- \*自主簡易アセスでは、地域性の焦点となるような環境要因を絞り込んで取組むと効果的ではないか。簡易さを損なわない程度で焦点問題での深さを入れることで実効性の高い環境アセスが可能になることが期待される。
- \*得意な分野はこのツールでやるのがいい。すべてのものをこれで解決するのは難しいと思う。得意な分野での深化を期待したい。

### <普及方策>

- \*アセスを広めるためには、まず知ってもらう。PRしていくこと。たとえば、地域に広めていく必要があるので、全国に8ヶ所ある環境パートナーオフィスを拠点にセミナーを開催してはどうだろうか。
- \*民間の立場から省庁と自治体に働きかけ、システムがこのように使えるということを具体例で示していくと広がるのではないか。
- \*参画機会を増やすことが大事。善意の業者さんはたくさんいるので、その人たちに浸透するように。地道に発信を続けることが大切。

### <今後の開発への期待>

- \*影響を受ける住民の目線からとらえて測定できることにより、将来的には複合的な開発の環境影響のバーチャル化も可能ではないか。
- \*自然保護協会では各地の自然保護調査員が地域調査を行っている。将来そうしたデータが活かされることを期待したい。
- \*各地域ですでに実施された調査のDBが構築されると、電子地図上で共有し、メッシュ状に環境配慮の必要な場所を判断できるようになるので、そのような簡易ソフトの開発も検討されたい。
- \*行政資料だけではなく、住民等が調べたものを引用することで自主簡易アセスの個性が出るといい。北九州市は環境配慮指針を持っていて、そのなかに住民による調査も引用されている。
- \*クラウド機能を使って、あとで帰ってから振り返ってコメントを入れられるなど、当事者意識を育てる取組みになるといい。
- \*データをもとにVRで作成した後、書面へリンクさせてグラフ化などできるようになればよい。
- \*臭気や香りも可視化できると面白い。

### <自治体との連携>

- \*自治体に、自主簡易アセスの実施を促し、実施する者を評価するような姿勢があると良いと思う。
- \*行政が自主簡易アセスに関する認証制度を作ればよいのでは。
- \*制度化にしてしまうと、自主簡易アセスのいいところでもある自由度が低くなるので、その辺のバランスが悩みどころ。
- \*自治体では、環境アセスは環境政策課、景観保全は都市計画系部署と縦割りで、横のつながりが持てないかと常日頃考えていた。自主簡易アセスの取組みがいいきっかけをつくるかもしれない。
- \*自治体から自主簡易アセスのことを知らせるように働きかけてもらいたい。
- \*自治体の環境配慮指針は項目が多く手間がかかる。その面倒な手続きを簡略化する上で支援サイトは有益かもしれない。
- \*今後は、自治体関係者を巻き込んだワークショップの企画を検討してほしい。

### <優遇策の検討>

- \*制度面からの後押しを得られつつ自由度を保てるような仕組みが理想。
- \*将来的には、自治体が固有で持っている環境配慮指針や契約指針の中に自主簡易アセスを促す優遇的な措置ができてくると有効性が出てくるのではないか。
- \*コンペティションにおけるプロポーザルで優位になるような仕組みで開発行為者のインセンティブになるような自治体手続上の位置づけも有用だと思われる。

- \*銀行から融資を受けやすいようになるという。「社会的にも認められていること＝アセスへの関心」という評価になるという。
- \*地域金融が貸し付けるとき環境意識の高いプロジェクトに出す例が増えている。自主簡易アセスを実施することで銀行からの融資が金利面で有利になる仕組みがあるという。
- \*実践事例はいずれも地元企業であり、地元配慮が必要という背景があったので、信金レベルの金融でのグリーンファイナンスを支援するといいいのではないか。

### <自主簡易アセスの担い手>

- \*アセスのコンサル業務では、通常、数人のグループでそれぞれ得意分野を担当しながら、一人で取りまとめる。支援サイトは、プロが一人でやるのに適している。業界をリタイアした人が地域活動をする際に使ってもらおうという。
- \*ヨーロッパのような第三者機関のチェックとして、簡易アセスを利用できればよい。
- \*日本環境アセスメント協会の「アセスメント士会」がそのような役割を担えるのではないか。

### <2会場同時開催に関してVRサポートからのコメント>

- \*支援サイトの紹介は、説明者からの手順で、表示手順が良く分り助かった。
- \*動画を見せる分には問題ないが、Road データで見せる際には負荷が掛かり、ノート PC では進行から離される場面があった。今後は別マシンでの操作を検討する必要があると思われる。
- \*ワークショップ自体は落ち着いて聞くことはできなかったが、自主簡易アセスという取り組みが事業主と住民の間に立って円滑に進められるように、これからも一緒に全国レベルで行われてゆけばよい、と感じた。

以上

### 自主簡易アセスの普及に向けたワークショップ

2016年3月7日



大阪会場

東京会場